

令和3年度 第4回南房総・館山地域公共交通活性化協議会 会議報告

会議の名称	令和3年度 第4回 南房総・館山地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和4年3月22日(火) 15時15分～16時15分
開催場所	館山市コミュニティセンター 1階展示ホール
出席者等	<p>&lt;出席委員&gt;18名</p> <p>豊田 和広 委員(千葉県総合企画部 交通計画課長)</p> <p>嶋田 守 委員(南房総市副市長)</p> <p>鈴木 雄二 委員(館山市副市長)</p> <p>簾谷 幸治 委員(東日本旅客鉄道株式会社 館山駅長)</p> <p>高橋 晴樹 委員(日東交通株式会社 運輸部長)</p> <p>竜崎 広幸 委員(ジェイアールバス関東株式会社 館山支店長)</p> <p>平野 直 委員(鏡浦自動車株式会社 専務取締役)</p> <p>本間 裕二 委員(南房タクシー株式会社 代表取締役)</p> <p>池田 和弘 委員(一般社団法人千葉県トラック協会 常務理事)</p> <p>丸山 徹 委員(日東交通労働組合 安房支部)</p> <p>長嶋 正明 委員(安房土木事務所 調整課長)</p> <p>高橋 佐一 委員(南房総市住民・利用者代表・富山地区)</p> <p>本橋 清一 委員(南房総市住民・利用者代表・白浜地区)</p> <p>嶋田 政雄 委員(館山市住民・利用者代表(連合副会長) 富崎地区連合区長会長)</p> <p>板垣友圭梨 委員(国土交通省関東運輸局 交通政策部交通企画課長)</p> <p>代理出席 交通企画課 係長 池田絵里子様</p> <p>佐藤 義尚 委員(関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官)</p> <p>鈴木 賢二 委員(安房道の駅連絡会会長)</p> <p>井澤 浩 委員(館山市社会福祉協議会事務局長)</p> <p>&lt;欠席委員&gt;5名</p> <p>成田 斉 委員(一般社団法人千葉県バス協会 専務理事)</p> <p>山崎 秀雄 委員(館山市住民・利用者代表(連合会長) 館山地区連合区長会長)</p> <p>木村 泰行 委員(館山警察署 交通課長)</p> <p>為国 孝敏 委員(NPO 法人まちづくり支援センター代表理事)</p> <p>轟 朝幸 委員(日本大学理工学部交通システム工学科 教授)</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>千葉県総合企画部交通計画課(企画調整班) 渡邊班長</p> <p>館山市総合政策部 亀井部長</p> <p>館山市総合政策部企画課 秋山副課長、大賀副主査、鈴木副主査</p> <p>南房総市総務部 朝倉部長</p> <p>南房総市総務部企画財政課 高梨課長、渡邊課長補佐、松田係長、忍足副主査</p>
傍聴人	0人

<p>会議の議題等</p>	<p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) 令和3年度協議会事業の結果について 【協議第10号】</p> <p>(2) 令和4年度協議会事業計画案について 【協議第11号】</p> <p>&lt;その他配布資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度協議会事業に係る新聞記事</li> <li>・ 富崎ぐるっとバスチラシ</li> </ul>
<p>議事概要及び 発言の要旨</p>	<p>別紙 会議要旨のとおり</p>

<p>豊田会長</p>	<p><b>【豊田会長 あいさつ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日はお忙しい中、また大変寒い中本協議会にご参加いただき感謝申し上げます。</li> <li>・また、日頃より千葉県および南房総・館山地域における公共交通行政にご理解、ご協力をいただいていることについて改めて御礼申し上げます。</li> <li>・さて、新型コロナウイルス感染症に伴うまん延防止等重点措置は昨日 21 日で解除となったが、新規感染者数は高い値で推移しており、テレワークやオンライン授業の活用等で通勤、通学が控えられるなど、公共交通の利用者はコロナ前の状態には戻っておらず、地域公共交通を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。</li> <li>・こうした状況を踏まえ、県では 2 月補正予算において、感染予防対策に取り組む公共交通事業者を支援するため、総額 2 億円の支援金給付を行うこととした。</li> <li>・今後もこうした取り組みを通じ、地域公共交通の維持確保に努めていくので、公共交通事業者の皆様においても、引き続き感染防止対策を万全にしながら地域住民の足を守るため運行を継続していただくようお願いする。</li> <li>・本日の議題は、令和 3 年度の協議会事業の結果及び令和 4 年度の協議会事業の計画案についてとなっており、説明の後、ご意見をいただく予定となっている。</li> <li>・皆様の活発なご議論をお願いし、挨拶とさせていただきます。</li> </ul>
<p>進行 豊田会長 事務局</p>	<p><b>【議事 1：令和 3 年度協議会事業の結果について】</b></p> <p>○協議第 10 号資料に従い、事務局から今年度実施した実証事業の内容について説明。質疑ののち、実施結果により県に補助金の実績報告を行うことについて承認された。</p> <p><b>【説明内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平群線の経路変更・デマンド化等の実証事業に係る利用状況等について</li> <li>②館山市神戸地区等における「買い物シャトルサービス」実証事業の利用状況（中間）等について</li> <li>③持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金実績報告書案について</li> </ul>
<p>本橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 月下旬に館山から丸線経由で、三芳分庁舎で乗り換えて平群線にも乗ってみたので、その際の意見や感想について報告させていただく。</li> <li>・ 丸線に乗車した際は、5 名乗っていた。資料によると、1 日平均 4.1 人が利用していたということである。丸線はある程度利用があるので、生活のため必要な路線だなと実際に乗って感じた。</li> <li>・ 次にデマンドの平群線についてだが、電話予約も大変良く、すぐ利用できた。</li> <li>・ 利用者は私 1 人だったので、運転手さんに利用状況を聞いてみたところ、平群線の利用はあまりないよという回答だった。</li> <li>・ ただ、資料を見ると、利用は少ないものの定期利用者がいるということなので、貴重な移動手段になっているのかなと感じている。</li> </ul>

<p>進行 豊田会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は安房地域医療センターで降りて館山へ戻ったのだが、戻る際にちょっと手間取った。その際に感じたのは、例えば館山駅までそのまま行けたら良いなということ。</li> <li>・あと、電話予約以外に、パソコンとかスマホで利用できればと感じた。</li> <li>・今述べた「そのまま館山まで行ける」ということと、スマホの予約、この2点については、令和4年度事業で計画されているAI デマンド交通の実証実験の中で検討されることと思う。</li> </ul> <p><b>【議事2：令和4年度協議会事業計画案について】</b></p> <p>○協議第11号資料に従い、事務局から令和4年度事業計画案について説明。令和4年度の予算案や正式な事業計画については次回会議にて諮ることとなるが、実証事業を行うため必要な準備等について、本日の説明内容に基づき着手することに関し承認された。</p>
<p>本橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を述べさせていただく。</li> <li>・事業計画について、AI デマンド交通として三芳地区と館野、九重地区の一部を含めた実証を、買い物シャトルサービスとして、豊房神余地区と白浜地区の一部を含めたエリアで実証を行うということで、2市合同の活性化協議会事業としては大変意義のあるものだと感じた。</li> <li>・AI デマンド交通のシステムについては他地域でもやっているところがあるが、大変利便性の良い事業と理解しているものの、この地区は高齢化が大変進んだ地区。電話予約のほかに、アプリをダウンロードして予約の操作をするという大変便利な方法もあるのだが、面倒だと思う人がどうしてもいると思う。</li> <li>・利用方法の周知、まず乗ってもらって理解してもらってことが必要だと思うので、例えばシニアクラブにお願いしてモデル地区を作るとか、周知方法を少し工夫・努力して利用を増やしていったらいいかなというふうに考える。</li> <li>・細かい点になるが、豊房線の再編のところ、資料2行目の白浜地区の長尾橋周辺とある箇所、かっこ書きに「割烹旅館清都付近の集落」とあるが、これ上の平群線と同様、本郷、川下地区と言った方が良いと感じた。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重なご意見をいただき、感謝する。</li> <li>・白浜地区の「割烹旅館清都付近」という記載は、標記を改めることとする。</li> </ul>
<p>佐藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの館山市会議では、細かい箇所に気がついていなかった点があり確認させていただきたい。</li> <li>・事業計画案の豊房線再編の中で、車両についてハイエースを使用するという中で、委託先に各種事業者を予定されているという中、11人乗り以下を予定していると記載してあるが、乗車可能定員10人以下の車両を予定しているということで良いか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員11人以下の車両を考えているが、定員10人の車両であれば普通免許で運行で</li> </ul>

<p>竜崎委員</p>	<p>きる。実際、タクシー事業者には運転手含め 10 人乗りのジャンボタクシーでやっていただいている。次年度も状況に応じて受託事業者が対応可能な範囲でやるという想定をしている。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊房線の再編の関係で、状況により 10 人以下の普通免許で運転できる車両で実施するということだが、今年度の神戸地区等の実証でも満席になったという例もあった。また、資料ではタクシー事業者への委託を予定しているとあるが、バス事業者が定員 11 人以上の車両で運行することも検討いただけないか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー事業者に委託というのはあくまでも予定であり、今後関係者間で話を詰めていくことになる。</li> <li>・各エリアでは今も既存のバス路線が走っているため、各関係事業者を含めた話し合いをし、その結果により委託者を決めていくという形になろうかと考えている。</li> <li>・資料の書き方が誤解を生んでしまったかもしれないが、交通事業者の皆様としっかりお話をさせていただいて、最終的な委託先を決めるというようなプロセスを踏んでいきたいと思うのでご理解願いたい。</li> </ul>
<p>板垣委員 (代理：池田係長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画案一番下の定額乗車券の企画造成について、バスで考えるとこの地域には JR バスと日東交通の 2 社あると思うが、定額乗車券は 2 社共通という認識で良いか。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだどこまで進められるか、未定の部分もあるが、2 社共通でないと利便性が高まらないため、2 社共通で企画、販売できればと考えている。</li> </ul>
<p>進行：事務局 事務局</p>	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館山市から、配布したチラシを基に、令和 4 年度から本格運行を行う富崎ぐるっとバスの事業内容について説明。</li> </ul>
<p>簾谷委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先日発生した東北地方を中心とする地震については、ニュース等既にご覧になっているかと思うが、東北新幹線が現在も一部区間で運休している状況である。</li> <li>・今日、新しい情報として橋脚にひびが入っている箇所が新しく見つかった等が入ってきている。</li> <li>・プレスでは 4 月 20 日頃全線運転再開という案内を出したところだが、今後、更なる設備の修繕が必要な状況になれば、再開が遅れる可能性もある。</li> <li>・また、在来線についても、橋脚の一部が欠けているということで、運行していた臨時快速列車も点検を行うため、一旦運転を取りやめるなどしている状況。</li> <li>・早期再開に向けて努力しているので、ご理解をお願いしたい。</li> <li>・館山エリアでは、昨日まん延防止措置が解除されたところだが、先週末からの 3 連休においては、徐々にではあるが確実にお客様の数が増えてきている。</li> <li>・館山発 16 時 2 分の特急新宿さざなみ号については、三連休の 3 日間とも、発車直前に改札周辺が利用者でごった返すような状況であった。</li> <li>・特急で東京方面へ戻る需要は、一時に比べればかなり戻ってきたという印象。</li> </ul>

<p>竜崎委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また、本日会議の中で、バスの実証実験等の話が出ていたが、当社としては JR 東日本各駅、東京・千葉方面にも多数駅がある。イベント等の際に毎回やらせていただいているが、ポスターやチラシ等を駅利用者向けに各駅に掲示することが可能である。大型のポスター等があれば送付願いたい。</li> <li>・館山駅長からも話があった東北地方での地震について、東北新幹線が不通になっている関係で、当社でも東京～仙台間で新幹線の代行輸送をしている。東北本線についても、東北エリアの支店で列車代行を実施しており、会社を挙げて親会社である JR 東日本を支援し、移動手段を提供している状況である。</li> <li>・一方、なのはな号については、3月18日から、今まで減便していた部分を3往復復活させた。</li> <li>・昨年、7月20日に大規模なダイヤ改正を行い、東京駅行き、バスタ新宿行きを合わせ32往復に改正したところだが、コロナの関係で減便を続けている。18日現在、合計で27往復運行している状況。</li> <li>・3月に入り、徐々にだがご利用が回復してきており、特に週末は1便平均20名近いご利用もある状況になっている。</li> <li>・先日の3連休においても、多くの利用者がいらして、鉄道の方も少しずつご利用が戻ってきてるという説明があったが、高速バスについても少しずつ戻ってきてるかなと捉えている。</li> <li>・しかしながら、コロナ前（2年前）を思えばまだまだ全然及んでおらず、約6割程度までしか回復してきていない状況である。</li> <li>・また、残念なことに道路状況、アクアラインの渋滞が激しく、連休中も1時間程度、最大で2時間程度遅れて到着するという現状がある。</li> <li>・また、一般路線バスについては、だいたい7割から8割程度ぐらいまでしか回復していない状況。</li> <li>・洲の崎線については、来月の5日からダイヤ改正を実施する。</li> <li>・昨年度、南房総パラダイスから、相の浜まで延伸し、当初2往復から始め、その後5往復運行していたが、ご利用が少ないため、来月5日からは3往復に減便する。</li> <li>・まだまだ通常期の利用者数には戻ってきていないと考えている。</li> <li>・南房州本線については、便数の変更はないが、列車のダイヤに合わせ、また学生の登下校の時間に合わせた改正を予定している。</li> <li>・当社も経営状況が厳しいところはあるものの、各地域で大切な移動手段としてバスを利用していただく方もいる。精一杯努力しながら、継続していかねばならないと考えている。引き続きよろしく願いたい。</li> </ul>
<p>高橋晴樹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社にて、観光庁による補助事業といたしまして、観光周遊バスの実証運行を実施したので、この場を借りて報告する。</li> <li>・観光庁における「既存観光拠点の再生高付加価値化推進事業」として、当社では3つの事業を展開したが、前回会議で報告した「道の駅富楽里とみやま～東京湾フェ</li> </ul>

リー」を結ぶ実証運行バスについて簡単に報告する。

- ・実施目的は、本地域の観光にとって繁忙期である時期に観光拠点をめぐる循環バスを走らせ、周遊を促すためバスガイドを乗車させ、観光案内やスタンプラリーを並行して実施し、二次交通インフラとして実装に近い運用をしながら、観光ニーズの掘り起こしや運行ルートの適切さを調査、検証することを目的としている。
- ・1月4日から2月8日の計36日間運行し、1日9往復8停留所を設けた。
- ・運賃は無料で乗降自由となっており、総乗降者数は2,091名であった。また、スタンプラリーの参加者数は316名だった。
- ・回遊率は約10%となっている。
- ・利用者層は主に一人旅、次いで家族や友人での利用が多く見られた。
- ・名称の「じょバス」にもある通り、女性の1人ひとり旅をメインターゲットとして想定したが、結果は男性の割合が多いという形になった。
- ・バス停ごとの利用状況は、多い順に、東京湾フェリー、道の駅保田小学校、道の駅富楽里とみやま、日本寺であった。
- ・利用者からいただいたアンケート結果を見ると、運賃が無料であること、またバスガイドによる説明の分かりやすさや親切さに対して全体的に満足度が高いという状況であった。
- ・本格運行については、アンケート結果のうち満足度の高い内容をどのように取り込めるか、また、各交通機関や各観光拠点との連携を深め、今後も検討していきたいと考えている。
- ・タクシー事業者で、観光庁の補助事業を活用した取組として、「南房総タクシー旅プラン」の実証を行ったので報告する。
- ・今回の事業目的は、道路整備が進んだことにより、観光客のほとんどが自家用車での日帰りとなってしまう、道路渋滞も多く発生している中、公共交通を利用して誘客を行っても、地域内の二次交通が弱く地域全体の観光周遊ができないため、行く場所が絞られてしまい長く滞在してもらえないという課題を解決するためのものである。
- ・課題を解決するため、タクシーを使い、割安な料金で観光地を回遊する実証実験を行った。
- ・実施期間は令和4年1月15日から2月28日の45日間で、地域のグルメ体験や歴史体験などを中心に、本地域を巡る21のコースを設定し、館山市、南房総市、鴨川市内に宿泊いただいたお客様には1,000円、日帰りのお客様には3,000円で、サービスを提供。
- ・営業区域内のタクシー事業者6社にて、限定200台で行った。
- ・実施期間中にまん延防止重点措置が適用されたため、感染防止対策の最新の注意を払いながら行った。
- ・稼働数については、宿泊利用が182台、日帰り利用が18台で、目標台数台数の200

平野委員

<p>事務局</p>	<p>台を達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地までの交通手段を聞いたところ、鉄道が 65%、高速バスが 25%、その他が 10% であり、多くの方が公共交通を利用して来ていた。</li> <li>・また、宿泊施設や観光施設からは、今回の実験によって増客につながったというご意見をいただいた。</li> <li>・お客様からも、二次交通として大変便利だと好評をいただいた。</li> <li>・利用者アンケートの結果を見ると、「効率よく周遊観光ができた」「ドライバーから地元ならではのお話が聞くことができた」など、大変好評いただいていることが分かった。</li> <li>・今後このようなプランが行われたら南房総に訪れるきっかけになるという回答が多数を占め、今後も同様の企画を実施してもらいたいという要望も多くいただいた。</li> <li>・タクシー事業者はまん延防止措置の期間中、観光はもとより、市民の方のご利用も大幅に減少しており、特に夜間業務がほとんどない状況だったが、実証実験により、運転者も奮起して取り組んでもらったと感じている。</li> <li>・この事業を通して、二次交通の充実を図るためのきっかけになったと自分自身も感じている。</li> <li>・実証結果を参考に、今後地域の観光資源を活用したタクシー企画に取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul> <p><b>【事務連絡】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の会議は 5 月を予定している。日程が決まり次第皆様にご連絡する。</li> </ul>
------------	---